

このコトバの一群に遭遇した

のは、30年ほど前のこと。それは、一冊の本

の中にあつた。そのコトバを声に出して読んだ
時、言い得も知れぬ震えを感じた。そしていつの日か

このコトバの一群が、舞台にのれるような芝居を思ひ
つきたいものだ」と不謹慎にも思った。隣りで、

悪魔から「人間には、やっていい事とやっちゃいけない事
があると思うけどなあ……」とアドバイスされた。それからと

いうもの思い出(笑)をするように、そのコトバ
を時に読み返しては、思い出(笑)をしながら生きていた。

この芝居『フェイクスピア』の最後は、そのコトバの一群
の引用で終わる。私ごときに創り変えられはな
らない(強)コトバだからである。それらは突如

生まれたコトバの一群である。フェイクではない。

ただし、そのコトバの一群は、『フェイクスピア』という題名
でありながら、シェイクスピアのコトバではない。

ゴメンね!シェイクスピア

野田秀樹